

## Milan Design Week 2024 Report

WONDER POWDER  
SHIMADZU x we+

島津製作所がwe+を迎え、ミラノデザインウィーク 2024で  
エキシビションを初開催



Photo : Hiroki Tagma

株式会社 島津製作所（本社：京都府京都市、代表取締役社長：山本 靖則）は、イタリア・ミラノで開催されたミラノデザインウィーク2024に初出展し、2024年4月12日（金）～ 4月21日（日）の10日間、ミラノ中央駅エリアにあるDROPCITYで「WONDER POWDER（ワンダーパウダー）」と題したエキシビションを開催しました。

島津製作所が、デザインスタジオ we+を迎えて2022年から始動した、粉末の可能性を模索するリサーチプロジェクト「WONDERPOWDER」。これまでさまざまな素材を粉末化し、水中での動きの観察や科学的分析、感性と論理双方のアプローチから粉末が魅せる美しさを探究し、ミラノデザインウィークで発表する運びとなりました。

プロジェクト名と同名を冠した本展では、アクリルケースを満たす水の中を、さまざまな素材の粉末が美しいグラデーションを描きながら流動する作品を展示。また、島津製作所の多様な分析機器を用いて粉末の元素や粒度の分布、形状の研究を実施し、粉末が魅せる「美しさ」を新たな視点で捉え、紐解く展示を実施しました。

## エキシビション概要

エキシビション名： WONDER POWDER (ワンダーパウダー)

会期： 2024年4月12日(金) - 21日(日)

開館時間： 12日(金) 18:00 -  
13日(土) - 21日(日) 11:00 - 19:00

会場： Dropcity Tunnel 44 (住所 / Via Sammartini, 20125 Milano)

主催： 株式会社島津製作所

リサーチ&デザイン： 安藤北斗・林登志也・桃 / 青木陽平・関口愛理・猪上気広・黄綺樺 (we+)  
竹川諒・杉江智哉・長谷部臣哉 (Shimadzu Design)

素材分析： 株式会社島津テクノリサーチ

テクニカルデザイン： 日下部理

エンジニアリング： 佐藤駿次

グラフィックデザイン： 庄司竜郎

写真： 林雅之

動画： 村瀬健一

コーディネーション： 金森裕貴子、合田紘子

協力： 東洋アルミニウム株式会社

ウェブサイト： 日本語サイト

[https://www.shimadzu.co.jp/research\\_and\\_development/design\\_strategy/milan/](https://www.shimadzu.co.jp/research_and_development/design_strategy/milan/)

英語サイト

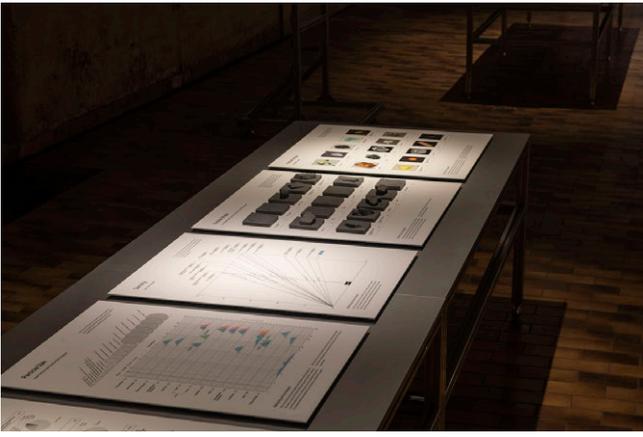
[https://www.shimadzu.com/research\\_and\\_development/design\\_strategy/milan/](https://www.shimadzu.com/research_and_development/design_strategy/milan/)

## 展示について

アクリルケースを満たす水の中を、さまざまな素材の粉末が大きさや重さ、形状などの違いから異なる沈殿速度を生み、美しいグラデーションを描きながら流動する全15作品を展示。また、島津製作所のエネルギー分散型蛍光X線分析装置(EDX)、粒子径分布測定装置(SALD)、走査型プローブ顕微鏡(SPM)などを用いた粉末の元素や粒度の分布、形状の分析結果も展示し、粉末が魅せる「美しさ」を感性と論理双方の新たな視点で捉え、紐解く展示空間を創り上げました。



Photo : Hiroki Tagma



Photos : Hiroki Tagma

## プロジェクトについて

鉱物から絵の具が生まれ、小麦はパンになった。

人類は古くから、固形物を砕き粉末にすることで、素材の可能性を広げてきました。粉末化は、人類にとって最もプリミティブな加工方法のひとつです。粉末にすることで素材が扱いやすくなり、使い道が広がることはもちろん、固形の状態では決して見ることのできなかつた表情やふるまいに出会うこともあります。

WONDER POWDERは、そんな粉末の可能性に魅せられた島津製作所とデザインスタジオwe+によるリサーチプロジェクトです。2022年に始動した本プロジェクトでは、粉碎したさまざまな素材の粉末について、水中での動きを観察するだけでなく、島津製作所の分析機器を用いて科学的に分析を行い、感性と論理双方のアプローチから粉末が魅せる美しさを探究し、今回の出展に至りました。



右画像 / Photo: 林雅之

## 関係者プロフィール

### we+

<https://weplus.jp>

リサーチと実験に立脚した手法で、新たな視点と価値をかたちに  
するコンテンポラリーデザインスタジオ。林登志也と安藤北斗  
により2013年に設立。

利便性や合理性が求められる現代社会において、見落されがちな  
多様な価値観を大切にしながら、自然環境や社会環境と親密  
な共存関係を築くオルタナティブなデザインの可能性を探究  
している。デザイナー、エンジニア、リサーチャー、ライターと  
いった多彩なバックグラウンドやスキルを持つメンバーが  
集い、日々の研究から生まれた自主プロジェクトを国内外で  
発表。そこから得られた知見を生かし、R&Dやインスタレ  
ーション等のコミッションワーク、ブランディング、プロダクト  
開発、空間デザイン、アートディレクションなど、さまざまな  
企業や組織のプロジェクトを手がけている。



Dezeen Awards 2022 / Emerging Design Studio of the Year Public Vote (英)、FRAME Awards 2023 / Furniture of the year (蘭)、Wallpaper\* Design Awards 2022 / Best Elements of Surprise (英)、EDIDA 2019 / Young Designer of the Year Nominee (伊)、日本空間デザイン賞金賞等受賞多数。  
作品は、Vitra Design Museum (独) に収蔵されている。

### 島津製作所

<https://www.shimadzu.co.jp>

京都に本社を置く、創業149年の精密機器メーカー。1875年の創業以来、社は「科学技術で社会に貢献する」、経営理念「『人と地球の健康』への願いを実現する」のもと事業活動を続け、分析・計測機器や医用機器、産業機器、航空機器など多様な製品をグローバルに提供。それらは医療や食品、マテリアルや環境・エネルギーといった幅広い分野に貢献している。

2023年4月には、「世界のパートナーと共に社会課題を解決するイノベティブカンパニーへ」を基本方針とする3か年の中期経営計画をスタート。「人の命と健康」（ヘルスケア領域）、「地球の健康」（グリーン領域）、「産業の発展、安心・安全な社会」（マテリアル、インダストリー領域）への貢献を通じて、プラネタリーヘルス（人と地球の健康）を追求していく。

### Shimadzu Design（総合デザインセンター）

[https://www.shimadzu.co.jp/research\\_and\\_development/design\\_strategy](https://www.shimadzu.co.jp/research_and_development/design_strategy)

島津デザインは、島津製作所の製品外観やUI、コミュニケーション、調査、評価等も含めた幅広いデザイン活動を行う部門。1958年に中央研究部意匠研究室を発足して以来、「世の中にまだないものでも、たった一人のためでも、それが人々のためになるのであれば、やってみる」という創業者から受け継いだものづくりへの信念を原点に、デザイン活動を行っている。

---

<プレスお問合せ先> \*ご取材や素材データのご依頼、ご質問などについては下記までお問い合わせください。  
HOW INC.  
Tel. 03-5414-6405 / Mail. [pressrelease@how-pr.co.jp](mailto:pressrelease@how-pr.co.jp)

<読者お問合せ先>  
株式会社 島津製作所 コーポレート・コミュニケーション部  
Mail. [pr@group.shimadzu.co.jp](mailto:pr@group.shimadzu.co.jp)